

地域災害医療を担う病院・医療機関に最適な 衛星通信システムの開発と運用に関する研究/検証の実施について

スカパーJSAT株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 執行役員社長 高田真治、以下スカパーJSAT）は、社会医療法人緑泉会米盛病院（鹿児島市）、独立行政法人国立病院機構災害医療センター（厚生労働省DMAT事務局）、独立行政法人国立病院機構大阪医療センター（厚生労働省DMAT事務局）、岩手医科大学、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学と共に、地域災害医療に最適な衛星通信システムの開発と運用に関する研究/検証を10月20日より実施いたします。

既に、上記5つの病院、医療機関、および大学のそれぞれに衛星通信設備の設置を完了しており、各機関は、衛星を介した音声通話、電話会議、インターネット接続、緊急地震速報の受信、オリジナルポータルサイトへのアクセスが可能な環境にあります。スカパーJSATは、各病院、医療機関にこれらの衛星通信機能を実際に利用して頂きながら、災害時に有用なシステムを検証します。

また、各大学からは共同研究を通じて、将来を見据えた新システムへのビジョンを提言頂く予定です。10月20日に各機関が集まり、第一回目の全体会合を開催するのを皮切りに、今年度いっぱいかけて、地域災害医療に最適な衛星通信システムの開発と運用に関する研究/検証を実施してまいります。

地震などの災害が起こった際には、災害医療を担う地域の拠点となる病院間で、通信の確保が重要となります。具体的には、病院の被災状況、患者の受入可能数、また、受け入れて欲しい患者数、備品の在庫状況の確認等、医療活動に必要なありとあらゆる情報のやりとりが必須となります。被災現場と被災者の受け入れ病院間も必ずつながる通信が必要です。

特に災害医療の現場では、発災直後から3日間の通信確保が重要とされており、地震などの災害時には衛星通信が果たすべき役割は大きなものと認識しています。

スカパーJSATは今年9月1日に行われた政府総合防災訓練における大規模地震時医療活動訓練に参加し、地上回線が寸断され電話も携帯電話も不通となったことを想定した訓練で、衛星によるインターネット接続や音声通話を可能とする環境を提供しました。その経験を踏まえ、今回の研究/検証を実施することで、来年度中をめざし、病院、医療機関に最適な衛星通信の新サービス提供開始につなげてまいります。

スカパーJSATは、病院・医療機関の皆様と共に、いつ起きてもおかしくない地震などの災害時に備えると共に、今後も衛星通信の特性を活かしたサービスで災害医療に貢献してまいります。

以上